

古高取通信

令和5年7月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



現在の宅間窠跡

目次	
定期総会	2
活動の記録	5
新理事紹介	8
なんでも掲示板	9
ダイジェスト	9
お知らせ	10

『平和の世を願う』

いま、世界各地での紛争が収まらず、各国が軍備の増強を競っており、いつ、世界戦争に突入してもおかしくない危機は高まっています。

広島・長崎は問うという記事に「いま、ロシアとウクライナの戦争が続いています。ウクライナの土地を欲しがったりしないでも、ロシアにはロシア民謡や、バレエ、文学、素晴らしい文化がある。文化で戦えばいい。文化の交流をして切磋琢磨すればいいんです。広島で主要7カ国首脳会議が開かれます。7カ国なんてケチなことを言わずに30、40カ国で文化交流をすればいい」という美輪明宏さんの言葉が載っていました。美輪さんは長崎市の生まれで、被爆者でもあり、自分の体験をかさねて、戦争への憎しみを強く語っていました。

何故、他国と仲良く出来ないのか、隣国と仲良くし、軍需費を無くせば、もっと豊かな国になるのに、と多くの人は願っているのに：

グレタさんの「大人たちは、いつも金の話と、経済成長がいつまでも続くというお伽噺ばかり」という言葉が心に響きます。

隅田知明

2023年度定期総会

〈2023年5月13日(土)〉
場所…直方市中央公民館

3階第3学習室

記念講演…鹿児島大学法文教育学域
文学系教授 渡辺芳郎氏
「薩摩焼の考古学―
薩摩焼の歴史に学ぶ―」

2023年度の定期総会は、事業経過報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)について滞りなく承認いただきました。出席者20名でした。



会長挨拶

隅田 知明

コロナも5類に移行し一段落で定期総会を開会することができました。本日は直方市長、福岡県議会議員、直方文化連盟会長の三氏を来賓としてお招きしております。

古高取を伝える会の成立は15年前の「高取焼開窯400年祭」記念事業の一環として、直方市内の小学校6年生を対象に実施したマイ茶碗づくりが好評で、事業を継承するため、古高取を伝える会が誕生しました。

市内の小学校6年生のマイ茶碗づくりを始めて2廻りを超え、現在1万個に近づいています。

また本年度は、直方市の主催する「東蓮寺藩成立400年祭記念事業」の一環として、10月にマイ茶碗1万個を記念した行事を実施する予定です。

当会はさらに活動の輪を広げ、文連の皆さんや各文化団体と連携を深めたいと願っています。



来賓挨拶

直方市長 大塚 進弘

みなさん、こんにちは。紹介を受けました直方市長の大塚です。前回の総会にもお招きをいただきました。

隅田会長から先にご案内がありました『高取焼開窯400年祭』には、私は当時、政策部長としてかかわっておりました。

私ども、みなさんが取り組まれている「古高取を伝えていこう」ということは、私はマイ茶碗の話だけでなく、子供達の手先や指の感覚みたいのも修得してもらうことが大事なことでと思います。

一方では能間文連会長が校長時代に学校でのプログラミングされた焼物づくりによる子供達の感性を磨くことを含めて、やきものを作る伝統文化の下支えや、現在も、子供たちのマイ茶碗の焼成にかかわっており感謝しています。

また今日は「薩摩焼の考古学」ということで、鹿児島大学の渡辺先生のご講演をなさるようですけれども、私どもには窯元が減るとい



うことが問題で、今回もございましたが後継者が見つかりまして繋がりました。やきものは何のためを使うかというのか、その後の高取焼は遠州好みとして茶陶の世界、伝統文化として、子供達のマイ茶碗作りを含めて必要であり「古高取を伝える会」のみなさんが地域財産として育んでいくわけであります。

今年のご案内あった『東蓮寺藩成立400年』というところで、しっかりと新たな地域財産として「古高取を伝える会」のご尽力をお願いして地域文化を伝えたいと考えています。

簡単ですがご挨拶とし、改めて本日の総会の御祝を申し上げます。

来賓挨拶

福岡県議会議員 香原 勝司

こんにちは。ご紹介をされました県議会議員の香原でございます。みなさんのお陰で多くのご支持を受けて無事に再選することができました。本当にありがとうございます。

「古高取を伝える会」の定期総会が開かれることはお喜び申し上げます。貴会が行われている小学校6年生のマイ茶碗作りは、高取焼の魅力を県内外に伝えていきます。末永く直方市を「高取焼発祥の地」として伝えるとともに、本年は「東蓮寺藩成立400年」の節目の年です。ですのでよろしく申し上げます。

先日、福智山ダムを訪ねました。堰堤のサイトには内ヶ磯窯跡の説明板とその横に麻生太郎氏の内ヶ磯窯跡名の碑が建っていました。その周辺部は、公園化が図られて市民の憩いの場となりました。福智山ダムは福岡県が事業主体で、ダム建設により内ヶ磯窯跡がダムの中沈んでいます。(註:内ヶ磯窯跡の本体は保存措置をしている)文化財と市民生活との共存の難しさを感じていると



ところで。考えてみると大変な事であったと考えています。

「古高取を伝える会」のみなさんが「古高取」にクローズアップされ、高取焼の魅力と価値を伝えていくこと、その歴史を福岡県内外、直方を活動の場として広げていくということが、次の世代に伝えることです。

みなさんが長く伝えることには健康が大切です。健康第一にお願い致します。

貴会が継続することを祈念しまして挨拶の言葉といたします。

来賓挨拶

直方文化連盟会長 能間 瀧次

みなさんこんにちは。直方文化連盟を代表してご挨拶をさせていただきます。

きます。

「古高取を伝える会」は、設立総会は平成20年で15年間の活動の中で、いろいろなものが発信され、発足の時のみなさんの仲間を決めた内容の4つの柱は、(1)活動の拠点を創る(2)古高取の知識を深める(3)古高取の魅力を伝える(4)次世代へつなげる。この4つの柱によって会は運営されています。

10年目に隅田会長が原点にもどって、文化団体や文化連盟等を集め拠点作りを考えてみたいと語っています。また(2)知識を深める(3)伝える(4)伝えを広げるということで、先ほどのマイ茶碗の活動は、小学6年生を対象として始められました。マイ茶碗の数は令和4年度で9555個で15年間の総数です。最初の5年(平成25)では、4958個(年間992個)次の5年(平成30)では1377個(年間276個)で次の5年(令和4)3220個(年間644個)です。

総数からの年間平均は637個を数えます。マイ茶碗は主体が小学6年生中心に幼稚園年長組・社会教育での親子陶芸教室・グリー

ンコープ生協焼物教室等の地域対象焼物教室と活動を広げているところ。マイ茶碗作りで1万個超すのも近いでしょう。

広報活動では「古高取通信」によつて会の運営や事業等を年2回発行して現在36号を数えます。ただし表紙が3回変更されていますので、その折の変更理由を告知することにしよう。一番問題は会員の減少があります。平成20年には200人↓平成25年100人↓平成30年73人↓現在70人と少なくなっています。若干心配しております。

この内容をそういう時代をどこかで話し合うことも直方市の文化を進める上で大事な事と思ひ挨拶といたします。



本年の総会後の特別講演会として参加者40人であった。

講師に鹿児島大学教授渡辺芳郎先生を迎えて『薩摩焼の考古学』ということでお話をしていた。

その講義の内容は次のような項目でまとめられていた。

- (1) 薩摩焼の概要
- (2) 朝鮮陶器はどのようにして薩摩焼になったか？
- (3) 薩摩茶入の政治的役割
- (4) まとめ

(パワーポイント使用)
その要約は次の通りです。
前置きとして、旧薩摩藩の領域の説明をした。

薩摩藩は薩摩鹿児島郡におかれた藩で、薩摩・大隅2国と日向諸県郡一部領有し、藩主は島津氏・外様大名で居城は鹿児島である。豊臣秀吉の天正15年(1587)九州征伐によって3国の内に削除



され60万5千石となった。次いで関ヶ原の戦いで、豊臣方に属したが本領を安堵され、慶長7年(1602)居城を鹿児島に築く、慶長14年(1609)琉球に出兵、寛永14年(1637)琉球高12万石を加える。そのうち沖繩諸島は進貢貿易をはかるものとする。その後、元禄時代(1688~1703)まで77万石余りに加増して、以後薩摩置県に至っている。

(1) 薩摩焼の概要

薩摩焼の開窯の契機は文禄・慶長の役(1592~1598)で領主島津義弘が殖産を図って朝鮮

半島から陶工をつれてきた。

慶長3年(1598)現鹿児島市の前之浜に20数名・東市来町神之川10数名、串木野市島平に43名、加世田市小湊に数名が渡ってきたと伝えられる。

窯の系統を大別すると

- ・ 堅野系(藩窯)・苗代川系(民窯)
 - ・ 元立院系(民窯)・龍門司系(民窯)
- の陶器主体の4系統と磁器窯である平佐系(民窯)に分類できる。

薩摩焼の窯場の分布図(近世薩摩藩は鹿児島県全域と宮崎県南部)

発掘調査された薩摩焼窯跡位置図等で説明を付された。

(2) 朝鮮陶器はどのようにして

薩摩焼になったのか

島津義弘は慶長の役の時は全羅道全域に侵入し、その後泗川倭城を完成させ泗川を拠点とした。秀吉は慶長3年(1598)8月19日死去し、朝鮮の在陣の倭軍の撤退を指示され島津勢も11月末に巨済島を離れて対馬へ向かった。これが倭軍最後の撤退となった。この時に連行された人々が薩摩領に置かれた。例えば薩摩焼の発祥は薩摩串木野島平にたどり着いた43名は島津氏は朝鮮の人々を置いて関



ヶ原の戦いにむかって、部下に任せられた。連行された人々は自力で生活を立てねばならなかった。彼らは零細な農業を行いやきものを作って生活の糧とした。この朝鮮人らがやきものを作ることを知った島津氏は彼らを苗代川に集めて保護を加えて、やきものに専念させた。藩は陶工金海(和名・星山仲次)を始良郡始良町帖佐に宇都窯を開窯させ藩窯とした。以後金海の家系が堅野系の窯を指導し茶入等茶陶を製作した。金海は慶長13年(1608)加治木町に移り御里窯を開き本格的な茶陶生産に着手し黒釉茶入の優品を多く遺した。

理事会

- 「第10回」
2023年1月10日(月)◇
- 「第11回」
2023年2月13日(月)◇
- 「第12回」
2023年3月6日(月)◇
- 「第1回」
2023年4月3日(月)◇
- 「第2回」
2023年5月1日(月)◇
- 「第3回」
2023年6月5日(月)◇

焼物部会

- 「元気会」
2023年5月10日(水)◇
場所…頓野台
- 「下境小学校」
2023年6月23日(金)◇
- 「上頓野小学校」
2023年6月25日(日)◇
- 「福地小学校」
2023年7月4日(火)◇
- 「中泉小学校」
2023年7月5日(水)◇
- 「植木小学校」
2023年7月7日(金)◇

水指ハシカラキ・肩衝薩摩

肩衝茶入れの薩摩焼が記録されている。

この時代の茶頭は古田織部で様式は織部好みである。

茶入れの作り方が高取焼と相違する。ロクロの使用が違っている。

高取焼は蹴轆轤で底部から一気に引き上げて各種の工具を使用して調整し最後に底部を糸切りしている順手が多い。

薩摩焼の茶入れの特長は内面の底部と胴部下端に接合痕が見られる付け底である。底部糸切り痕が

残っている。口縁から肩部はロクロ水挽き成形である。ロクロの相異している。

この茶入れが政治的に意味をもたせて古田織部の影響を受けて島津家と織部との関係が窮えることである。

これらの茶入れは藩窯である宇都窯と御里窯で焼成されている。

まとめとしては、鹿児島にきた朝鮮陶工は甕や壺を作った。甕匠が大半で、一部に沙器匠も入っていたと思われる。これに日本における需要と供給の関係から、それに対応して技術の導入があり薩摩焼となった。

この薩摩焼では日用雑器民窯で、藩窯では茶道具を中心に制作した。宇都窯と御里窯には茶入れには若干の相違が見られる。

この茶入れは政治的な意味を持つていたと考えられる。

学習部会としては、非常に興味深いお話しだった。茶入れについては、高取焼との相違が判明したこと、島津家の政治的動きである。渡辺先生ありがとうございました。

元和5年(1619)義弘の死去に伴って藩主島津家久は現在の鹿児島市に移城し金海等も同市冷水町に堅野冷水窯を開窯し江戸時代を通して藩窯の重い役目を担った。

島津氏は占領した朝鮮の泗川地域の陶工集団の中に沙器匠(さきしよう)と民窯である甕匠(おんじょう)の両者の集団を連行していったと考えられる。

沙器匠(さきしよう)とは磁器を製造した陶工である朝鮮王朝時代(1392～1910)から現在まで伝わる用語である。現在韓国では無形文化財保持者に「沙器匠」として指定される。焼成室を壁で仕切る割竹式登窯を使用。

甕匠(おんじょう)とは甕・壺などの貯蔵器をつくった。焼成室に壁の仕切りのない単室登窯を使用。単室の朝鮮式半円筒形単室傾斜室を築いた。

(3) 薩摩茶入れの政治的役割 『神屋宗湛日記』には慶長11年(1606)10月5日の候に伏見茶会使用茶器を述べると

十月五日主催者上田寛甫(茶碗) 黒茶碗京ヤキ(その他)セト水覆・



三年間続いたコロナもようやく
終息し、5月に入ると日常がもど
り始めました。

暑い夏にマスクを外した生活が
できることをホッとしています。

令和5年度の陶芸教室も実施日
が決まり一学期5校が終了しまし
た。

どの子ども達もこの時間を楽し
みに待ってくれていて嬉しい限り
です。

思い起こせば宅間窯400年祭
の直方市を上げての事業に少しだ
け手伝ったのがきっかけで200
8(平成20年)に発足した「古高取



を伝える会」のメンバーに入れて
いただき今に至っています。

活動の1つの6年生を対象にし
たマイ茶碗作りをずっと続けてこ
られたことは私の宝物で元気の元
になっています。

大人になってもマイ茶碗を持ち
続け、ふるさと直方が高取焼発祥
の地であることを思い出してほし
いと願っています。

令和5年度で6年生・一般を合
わせて作陶数が1万個になります。
感慨深いものがあります。

学校も6年生担任をされて経験
された先生も多くなり活動がスム
ーズに流れはじめています。

直方市をはじめ、関わって下さっ
た多くの皆様にお礼申し上げます。
末松登志子

広報部会

「第1回」

へ2023年7月3日(月)へ
場所…明元寺(直方市永満寺)

学習部会

学習部会は、9月からの実施予
定ですので、「お知らせ」のページ
で紹介します。

●萩焼のルーツを求めて、

桜トンネルを楽しむ

(学習部会・現地視察)

へ2023年3月22日(水)へ

場所…萩地域

3月22日萩焼巡りへ。目指すは
萩駅。満開のミドリヨシノの出迎
えに嬉しさ百倍。ミドリヨシノと
は、純白の桜で、遠くから見ると
淡い緑色に見える萩にしかない
という大変貴重な桜のことです。

萩駅では、「鉄道の父」と呼ばれ
る萩出身の井上勝像が建てられて
いた。

150年前に日本で初めて新橋
―横浜に鉄道が開通した時にお召
列車が往復することになったが、
明治天皇は3号車にお召しになら
れたが、この井上勝も3号車に同
乗されたという。そのお召し列車
の席順一覧表も萩駅に展示されて
いた。因みに西郷隆盛、大隈重信、
板垣退助等は4号車であった。

街路の桜を見ながら、萩城指月
公園へ。これまた満開の桜・さく
ら。桜と石垣のコントラストが素
晴しい。桜トンネル、青い海。山
々のみどり。

午後からは 坂高麗左衛門窯元
へ。萩藩の御用窯として400年

の歴史を受け継ぎ、若き14世高麗
左衛門氏と面談。山深き静かなた
たずまいで、お抹茶のおもてなし
に癒されたひととき。

そのルーツは朝鮮陶工から始ま
り、高取焼ルーツと相いれるよう
である。

明治維新から新時代にかけて活
躍する人物を育てた松陰神社の境
内にある松下村塾。8畳、10畳半
の畳の重みに歴史の流れが刻み込
まれていくようであった。

400年前にタイムスリップし
た一日でした。

柴田ムツ子



●現地視察(窯元訪問)に参加して
萩焼窯元へ

〈2023年3月22日(水)〉
場所…萩地域

楽しみにしていた萩焼窯元巡りバスツアーに参加した。参加者は総勢二十一名にて、午前九時に直方中央公民館を出発した。

バス内にて訪問先等の説明があったが、当日は米国フロリダ州にてWBCのアメリカとの決勝戦が行われており、バス内でのラジオ実況に一喜一憂、大変な賑わいがあった。

このような状況で、バスは中国



J R 萩駅の様子

自動車道を通り、美祢JCTから萩道路に入った。そうこうするうち、午前十一時前にバスは萩駅に到着した。

J R 萩駅は大変レトロな駅舎にて、昔の直方駅を想わせるようであった。

駅舎内には萩市の歴史を紹介した、たくさん史料が掲示してあり、駅前には花壇が整然と整備されているのが、印象的であった。

その後、萩城跡に移動、周辺の散策を始めた。私は萩市には過去何回となく訪れているが、萩城跡は初めての訪問であった。想像以上の広大な敷地と重厚な石積みは圧巻であった。

萩城跡は毛利三十六万石の城として、慶長九年に築城を開始、指月山の山麓に本丸が築かれたが、明治七年に天守等が解体され、庭園や石垣、堀の一部が往時の姿をとどめている。城跡の周辺には数多くの萩焼、販売店が有り、萩焼特有の貫入の入った肌合いの焼き物が眼を楽しませてくれる。

昼食は近くの「萩焼会館」にて、美味しく摂らせていただいた。

昼食後、萩焼会館内に展示してある陶磁器等を見学、土産品などを購入した後、次の訪問地である窯元『坂窯』にバスで向かった。

窯元「坂窯」は萩市東部郊外の山あいの閑静な場所に在り歴史の重さを感じる。

窯元の当主「坂悠太」さんの出迎えを受け、我々二十一名の訪問者全員が、お座敷に通され、御茶菓(抹茶)の接待を萩焼茶碗にて受けて、美味しく又、大変感激した。坂家略系によると、豊臣秀吉による文禄・慶長の役(一五九二年頃)の折、毛利輝元公により、連れ帰られた朝鮮の陶工「李勺光」・「李敬」によって、創始されたことである。

高取焼の黒田長政公により同様に、連れ帰られた朝鮮の陶工「八山」と、同様のことであろう。

関ヶ原の戦いの後、防長二州に封ぜられた、毛利公の萩への入府の折、萩・松本の地に「御用焼物所」が、設置されたが、陶工の「李敬」は一二二五年に毛利(萩)藩の初代藩主毛利秀就から「高麗左衛門」の名を受けた。

「李敬」は、この地、萩にて守り続け、「坂窯」は、四百年に亘る歴史を築いたとある。

初代から八世までは、毛利藩御用窯として、歴史を築いたが、明治維新により、藩窯を解かれ以後、九世〜十四世まで一般の窯元としてきている。

十三世(先代の母親純子さん)

から二〇二二年三月には、現当主が十四世萩焼宗家坂高麗左衛門を襲名された。

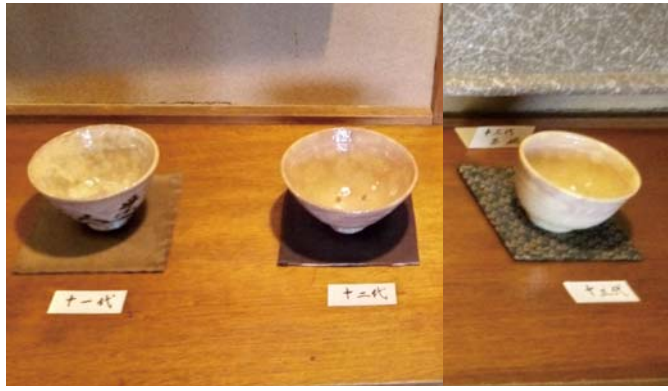
案内された「坂窯」の展示場には初代から十三世までが作陶した作品が展示されており、四百年の歴史を垣間見る気分であった。これらの作品を鑑賞して、全く素人の私から見て、恐れ多いことであるが、「初代〜八世」の作品と、「九世〜十三世」の作品は少し変化があると感じられた。



初代〜三代の作品

「初代〜八世」の作品は、高取焼と同様に茶系の物が多く薄く作陶されているようである。

一方「九世〜十三世」の作品は自由気ままな色づけが施され、白い又は薄ピンク色の土が主に使われて、厚味のある作品が多いようである。



十一代〜十三代の作品

十四世「坂窯」当主の説明によると、江戸時代までは毛利家の支えがあつて陶土が採集されていたが、明治以降は毛利家の支援がなくなり、使う陶土が変化したとの事である。

今後の作陶について「坂窯特有の優しい色合いや温かみを生かし

ながら、自分で採取した土を混ぜるなどして、素材感を調整したい」との事であった。

其の後、屋外にある二基の「登り窯」を拝見したが、薪に使う木は松の木だそうだ。



坂窯の登り窯

「坂窯」の素晴らしい作品を拝見し、素人乍ら大変感動し、再度訪問したいと思いつつ、次の訪問先に向かった。

幕末期に吉田松陰が主宰した私塾「松下村塾」と「松陰神社」を訪ね、観光ボランティアの方たちの説明を聞きながら見学した。

何度となく訪れた場所であるが、

吉田松陰先生が育てた、明治初期の偉人の多さ、そのすごさに驚き入る。

十七時半頃、無事直方市中央公民館に帰着、本当に貴重な体験をおこない、楽しいバスツアーでした。

又同時にWBCで日本の優勝を聞いたのも、このツアーの最中でした。

この企画を計画いただいたスタッフの方々のお世話、誠に有難うございました。

中西徹

新理事紹介

理事

成清 一枝



お茶を習っていたことから、以前から古高取の会に関わってきました。また、子どもに関するカウンセリングを仕事としてきたこと

から、再び子供に関われることを楽しみにしています。

これから、よろしくお願ひします。

理事

村上 和正



今年度理事をさせていただくことになりました、村上和正と申します。

当会には、前職の直方市中央公民館（現社会教育係）や商工観光課での業務の中で、折に触れ接する機会がありました。

現在、音楽を中心に活動していますが、市外に出向いた際には、直方の事を知っていただききっかけになればと思ひながら演奏しています。

今回、当会の一員として直方の歴史と文化を次世代に伝える立場となりまして、精一杯努めさせていただきますと存じます。

どうぞよろしくお願ひします。

なんでも掲示板

●あじさい園だより

～金剛山もとり保全協議会～

〈2023年1月〉

場所…金剛山もとり広場



暑中お見舞い申し上げます。

6月3日～25日までの「あじさい園」一般公開を終え、ホッとする日々です。

期間中は適当な雨がありがたさほどではなく、近年では一番美しい「あじさい」を皆様に見ていただけたかなと思います。

この静かな山里に9000台近い車が行き来し地元の皆様にはご迷惑をおかけしました。

「古高取を伝える会」は「あじさい園」発足より会員に入っていた

だいており、お手伝いをしていた

だき来園の方達とも楽しい会話が

はずみ来年もまた元気で再会を約

束しました。

7月中には「あじさい」の花つみ

をし8月を休みとし、9月よりま

た土曜日を活動日と決めています。

令和6年に向けて新たなスター

トです。

”もう歳だから”なんて言って

おられませんね。

あじさい園一同

●本の紹介

『やきものと渡り陶工』

発掘陶片にみる九州古陶磁の技術交流

副島邦弘

花乱社 定価(本体2500円+税)

渡り陶工が修行を重ね、技を磨いていったこと。また、そこから「国焼」が生まれたなど。

謎多き高原五郎七にもせまる内

容。本についての問い合わせは、

事務局(☎0949(23)1311)

へお願いします。

ダイジェスト

●子供焼物教室(焼物部会)

今日初めてお茶を立ててみて、1番に難しいなと感じました。茶せん先の付け方や、お茶わんの持ち方など気を付けることが多くてびっくりしました。お茶の味は苦かったけど、ほほいところもあって面白かったです。私は和がしが少し苦手だけど、おせんべいもうさきちゃんもとてもおいしかったです。前道徳の学習で、お茶会のおもてなしについて少し学んだときに、亭主さんの気遣いがすごくて思いました。今日も、かけじくの字やお花、置き物やおかしなど、すべてよく考えて選んでくださっていると思うと、改めてすごいなと思いました。正座はつかれたけどとても楽しかったし、またやってみたく思いました。ありがとうございました！

吉原 あすかりよ

焼物教室やその後に開催された茶会に参加した子ども達から感想文をいただきましたので、少しだけ紹介させていただきます。

お茶会をふり返って・・・

・お茶会を通して学んだことや感じたことについて書きましょう。

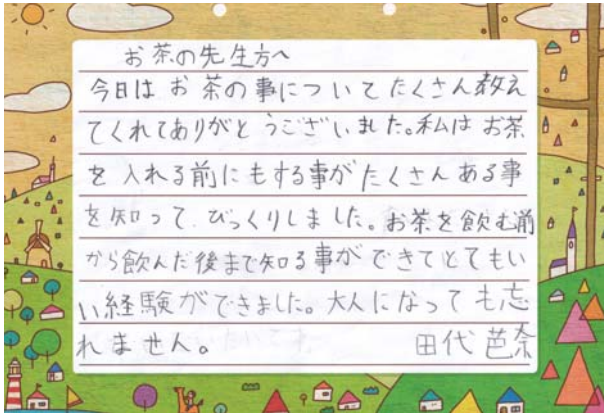
・お茶会をして頂いた方へのお礼の気持ちも伝えましょう。

私は、お茶会を通して、お茶の立て方や、おかし、頂き方などの、お茶の心に関わることをたくさん学びました。十月ごろに、自分達で、つくった物でお茶を立てたり、つくった高取火を見たり、茶道の基本となる、おじぎの仕方、おかしを頂く時には、お先に、「どうも」といふことを忘れないことなど、優しくおしえてもらい、卒業までの思い出が一つふえました。お茶会をして頂いた方、一から茶道のことを優しくおしえてくれてありがとうございました。これから中学校へ進学するにあたり、今回学んだことを忘れずに、がんばりたいと思います。本当にありがとうございました。

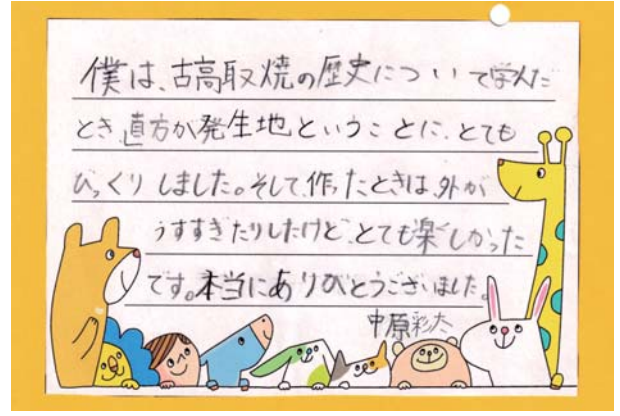


感田小学校6年生から感想文をいただきました。

下境小学校6年生から感想文をいただきました。



直方南小学校6年生から感想文をいただきました。



植木小学校6年生から感想文をいただきました。

お知らせ

● 焼物教室

- 「鞍手幼稚園」
 <2023年9月1日(金)>
 場所…鞍手幼稚園
 - 「直方西小学校(第6回)」
 <2023年9月6日(水)>
 場所…直方西小学校
 - 「新入小学校(第7回)」
 <2023年9月26日(火)>
 場所…新入小学校
 - 「直方北小学校(第8回)」
 <2023年10月6日(金)>
 場所…直方北小学校
 - 「感田小学校(第9回)」
 <2023年10月13日(金)>
 場所…感田小学校
 - 「直方東小学校(第10回)」
 <2023年10月19日(木)>
 場所…直方東小学校
 - 「直方南小学校(第11回)」
 <2023年11月1日(水)>
 場所…直方南小学校
 - 「親子陶芸教室」
 <2023年11月18日(土)>
 場所…直方市中央公民館
 - 「東蓮寺藩成立400年記念」
 <2024年2月10日(土)>
 場所…秋月博物館(朝倉市)
 ※詳細は、別途ご案内致します。
- 皆様、ご協力のほど、宜しく
 お願い致します。

● 高取焼基礎研修講座

- テーマ…世界の茶―歴史をひもとく―
- 「第1回」
 <2023年9月9日(土)>
 内容…世界の茶について
 - 「第2回」
 <2023年10月14日(土)>
 内容…中国の茶
 - 「第3回」
 <2023年11月11日(土)>
 内容…アジアの茶・西欧の茶について
 - 「第4回」
 <2023年12月9日(土)>
 内容…まとめとして日本の茶
 - 「現地視察」
 <2024年3月 予定>
 バス見学…柿右衛門の里(有田町)
- 詳細は、別途ご案内致します。

子供焼物教室を体験した
 感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した
 最初の子供たちも20歳を過ぎ
 ました。

茶碗づくりをどう思っている
 でしょうか。茶碗づくりや
 歴史学習を通して趣味や関心
 は広がったでしょうか等、マイ
 茶碗を持っている方々の現在
 の思いをお知らせください。

〈編集後記〉

今号の表紙は、現在の宅間窯
 跡の写真を掲載しました。古高
 取の原点と言えますが、地域の
 宝や文化等を紹介する意味もあ
 ります。他団体とも協力し合い
 地域文化等の発展にも繋がるこ
 とを願っています。

ちなみに前号までは、焼物教
 室等で関わった皆様の作品等を
 掲載しました。今後も多くの皆
 様と関わらせていただくことと
 思います。皆様の心に残るよ
 うな会報にできればと思います。
 皆様、今後ともどうぞ宜しく
 お願い致します。

「古高取通信」会報・NO 37

- 〈発行〉
 古高取を伝える会
- 〈発行日〉
 令和5年7月31日
- 〈現在の会員数〉
 正会員 185名(54日)
 賛助会員 18名(27日)
 団体 1団体(1日)
- 〈マイ茶碗の数〉
 9555個
- 〈事務局〉
 〒822-10026
 福岡県直方市津田町7-14
 TEL 0949(23)1311